

同じ物は存在しない。だから誰がどこの砥石を使っている…という情報は、あまり役に立たないかも知れないが、その砥石を使う目的や考え方、こだわりの一端をうかがうことはできると思うので、それぞれの職人が使用している天然砥石を細かく書いた。もちろん55ページの猿谷さんのように人造砥石だけで薄削りの結果を出す職人もいるので、一概に「天然砥石でなければならぬ」というわけでもないが、自分が使っている刃物と相性の良い砥石との出会いは、研ぐ楽しみ、その刃物を使う気持ちよさにつながっていることは間違いないようだ。

砥石はもともと荒砥も中砥も仕上げ砥も、全て天然の砥石を使用していたので、厳密には「天然中砥」、「天然仕上げ砥（合砥）」などと表記すべきであろうが、実際の刃研ぎに於いて仕上げ砥以外の研ぎに天然砥石を使用する人は皆無といってよく、「天然」といえばほぼ100%仕上げ砥のことを指しているのです、この章でも「天然砥石」といえば「仕上げ砥」と理解していただきたい。

砥石はもともと荒砥も中砥も仕上げ砥も、全て天然の砥石を使用していたので、厳密には「天然中砥」、「天然仕上げ砥（合砥）」などと表記すべきであろうが、実際の刃研ぎに於いて仕上げ砥以外の研ぎに天然砥石を使用する人は皆無といってよく、「天然」といえばほぼ100%仕上げ砥のことを指しているのです、この章でも「天然砥石」といえば「仕上げ砥」と理解していただきたい。



「円盤」と呼ばれる、回転砥石の上で面付け加工される天然砥石。

天然砥石
京都亀岡砥取家



丸尾山の採掘現場。以前は愛宕山を境に東の産地を「東モン」、西を「西モン」と呼んだ。現在、構内掘りをしている、唯一の砥石山だ。



丸尾山 合さ



丸尾山 白巢板 (蓮華)

今も掘り続ける天然砥石

ここで紹介する天然砥石は、5人の職人が使用した砥石と同じ産地、地層のものを中心に紹介する。現在でも採掘が続いている砥石山の砥石は購入しやすいが、すでに閉山している山の砥石も、数は少ないものの流通しているので入手困難というほどではないだろう。

現在でも天然の仕上げ砥石を掘り続けている山はいくつか存在する。その中で、京都の丸尾山と、若狭田村山は削ろう会会員によく知られるところだ。どちらもインターネットを通じて購入可能な砥石である。

最近ではネット通販での天然砥石の購入が一般的に広まっており、ここで紹介した職人が使用している砥石も、ネット販売で購入したものが複数あった。モニターで見ると写真だけで判断し、決して安くはない買い物をするので、やはり勇気が要るようだが、いくつもの天然砥石を使い、実際に研いだ経験の蓄積が、見た目での判断を助けているのだろう。

もともと天然砥石は実際に研いでみて、

刃物に合った砥石探し

大工道具の世界では、仕上げ砥石に天然を使用する人は多い。人造のように製品として砥石の性質がハッキリしているわけではないので、例えば「中山巢板」という砥石を購入して、全てが同じ性質のものを購入できるわけではない。

産地によるブランドや、砥石層による種類の違いで、品名としては区別されているが、自然界のものなので、基本的に二つと

自分の使ってる刃物との相性を見て買うものだった。丸尾山の砥石を販売している、京都亀岡の「砥取家」では、お店に行くと今でも試し研ぎをしてから買うことが可能だ。大工の集団が観光バスをチャーターして買いに来る、そんな珍しい光景も、ここでは普通のことだ。

もちろん削ろう会の会場でも、並べられた砥石から気になるものを選び、研いでみて納得したら購入する…、そんな対面販売が普通におこなわれているので、天然砥石で研いだ経験のない人でも、いくつもの砥石を比較して購入することが可能だ。